序	<p>ごみの分別を再強化し徹底する「ごみの行方物語」の粗筋を描く</p> <p>次の各ステップを着実に進めるため、「適正処理」のベースを構築</p> <p>■分別後のごみ(資源)の行方を探検し、ごみの変容を知る</p> <p>①その1:発生抑制できるごみはどれか(→物語の「起」へ)</p> <p>②その2:再利用できるごみはどれか(→物語の「承」へ)</p> <p>③その3:再利用(資源化、エネルギー化)できるごみはどれか(→物語の「転」へ)</p> <p>④その4:焼却・埋め立て止む無しのごみはどれか</p>
----------	--

起	<p>ごみを発生を抑制し「物語の入り口」に入る</p> <p>■レジ袋削減・脱過剰包装運動を開始・展開する</p> <p>・売り手と買い手の相互対話による新たなスタイルの確立</p>
----------	---

	<p>■日常生活でのごみ減量化を推進する</p> <p>・現状を知る</p> <p>・ごみ減量化対策の7行777を出し合い、実践につなげる</p>
--	---

	<p>■ごみをごみにしないためのシステムの活用</p> <p>・世代間の「おさがり」を社会的な「おさがり」文化に拡大する</p>
--	--

承	<p>暮らしの道具に愛着を育てる再使用で、「物語」は佳境に入る</p> <p>■こだわりと愛着により、暮らしの逸品を育てる生活様式を実践する</p> <p>・修理しながら愛着をもって同じ物を大切に使い続ける生活を楽しむ</p> <p>・物を大切にすることを育む</p>
----------	--

転	<p>モノの姿が変身する再利用(リサイクル)で、「物語」は大きく転換する</p> <p>■持続可能なリサイクルシステムの構築</p> <p>・拠点回収品目の拡大検討</p> <p>・集団資源回収ルート拡大活用検討</p> <p>・公共施設、店舗等での資源回収の拡大</p> <p>■リサイクル推進による地域活性化への取組</p> <p>・リサイクル製品等の積極的活用</p> <p>・バイオマスをはじめとした未利用資源の利活用に向けた検討</p> <p>・リサイクル事業の創出・誘致</p>
----------	---

①行政としての役割	②これまでの取組	③左の説明コメント	④委員会からの評価コメント(案)
<p>○適正処理に向けた啓発、イベント等の開催</p> <p>・回収ごみの組成内容の情報公開</p> <p>↓</p> <p>↓処理過程に関する情報提供</p> <p>↓適正なごみ処理に向けての課題抽出</p> <p>●ごみ処理のあり方を検討</p>	<p>・リサイクル推進員の委嘱を通じての町内会への適正処理推進への協力要請(H15~)</p> <p>・「たしかわごみ処理読本」の制作、公表(H16)</p> <p>・市役所ロビーでの不法投棄防止啓発展示(H22~)</p> <p>・飛行活動時における不法投棄等の発見・通報に関する4者(北海道、警察署、市、スカイボーン振興協会)協定の締結(H22~)</p> <p>・小中学校等へのごみ処理に関する出前講座の実施(H23~)</p> <p>・ごみ組成調査の実施及び結果公表(H23)</p> <p>・廃棄物減量等推進審議会の開催(H23)</p> <p>・広報たしかわに特集「ごみにするその前に」を掲載(H23/9月)</p> <p>・リサイクル推進員を対象とした研修会・意見交換会等の実施(H25)</p> <p>・ゴミ収集に、雑がみ(封筒、菓子、食品の箱や様々な紙製品)、特定品目(電池、蛍光灯、スプレー缶など)の無料回収の追加(H26)</p>	<p>○26年4月より、ごみの分別方法を一部変更し、資源ごみ(古紙類)の分別収集品目の拡大として「雑がみ」を資源ごみに加えたほか、危険あるいは有害なごみを「特定品目」として無料回収を開始した。引き続き市民にリサイクルや資源回収の意識を高めてもらうことを継続する。</p>	<p>ごみの分別・収集方法については、改めて住民に周知を行うほか、ごみ処理の現状を知ってもらうなどのさらなる取組が必要である。</p>

<p>・市民や事業者との連携により実態把握</p> <p>↓相互の意見調整等</p>	<p>・滝川消費者協会及びスーパー事業者とのレジ袋利用抑制推進に関する協定締結(H20)</p> <p>・そらぶちキッズキャンプオリジナルエコバッグの制作・配付(H20)</p> <p>・レジ袋削減効果調査(H21,H22)</p> <p>・過剰包装に係るアンケート調査(H23)</p> <p>・容器包装簡素化の取組を紹介するパネル展の実施(H24~)</p>	<p>○レジ袋削減の意識(→マイバッグ等の持参)は市民に概ね定着していることから、今後はごみ減量化方策について情報収集に努める。</p>	<p>市民や団体等の幅広い意見を探り入れながら、新たな施策を期待する。</p>
--	---	--	---

<p>・ごみ排出に関する情報提供と対策の提示</p> <p>↓ごみ排出量や組成等の情報提供</p> <p>↓関係者等の意見交換による具体的方策の検討</p>	<p>・廃棄物減量等推進審議会の開催(H23)</p> <p>・ごみ組成調査の実施及び結果公表(H23)</p> <p>・古繊維の回収品目の拡大(H25)</p> <p>・小型電子機器の無料回収品目の拡大(H25)</p> <p>・ゴミ収集に、雑がみ(封筒、菓子、食品の箱や様々な紙製品)、特定品目(電池、蛍光灯、スプレー缶など)の無料回収の追加(H26)</p>	<p>○小型電子機器や古繊維の無料回収の取組については、周知がされており、昨年度より回収量が大幅に増となった。今後は、新たに追加した雑がみの無料回収等の更なる周知を行い、リサイクル率の向上等に努める。</p>	<p>26年度より新たに雑がみの回収も開始したことから、引き続き周知等に努める必要がある。</p>
--	--	--	---

<p>・フリマ開催情報等の提供などの支援</p> <p>↓情報交流の支援</p>	<p>・不用品データバンクの活用</p> <p>・リサイクルフェアの開催(H18以前~)</p> <p>・フリーマーケット情報交流事業(H18~)</p> <p>・不要カレンダー等回収及び配付事業</p> <p>・リサイクルショップ情報の集約(H24~)</p>	<p>○市内リユースショップの情報をHPのほか、チラシとして、パソコンを所持していない層に対するの周知も行った。今後も、更なる掲載店舗数の増加や周知等に努め、市民が利用しやすい環境整備を行う。</p>	<p>引き続きフリーマーケットやリユースショップなどの情報発信を続け、市民に再利用を優先して考えてもらうようにすることが必要がある。</p>
--	---	--	--

<p>・リペアビジネスの創出拡大支援</p> <p>↓買換・修理の価格比較などの現状調査</p> <p>↓修理屋さん情報の集積・提供などの支援</p>	<p>・現状等調査、方策検討(H25~)</p>	<p>○リペア(修繕)に限らず、リサイクルショップと合わせた情報収集に努める。</p>	<p>ものを大切にすることを育むために、リペア(修繕)やリサイクルの視点も交えた新たな施策を期待する。</p>
---	--------------------------	---	---

<p>・リサイクルシステムの構築</p> <p>↓情報の周知と概要に関する情報提供</p> <p>↓排出者と処理事業者の接点としての調整</p> <p>↓回収品目、箇所等のPR支援</p>	<p>・集団資源回収奨励金の交付(H18以前~)</p> <p>・古繊維の無料回収(H18以前~)</p> <p>・廃食油の無料回収(H19~)</p> <p>・古紙の定期収集(H22~)</p> <p>・小型電子機器の拠点回収(H24~)</p> <p>・公共施設における使用済み廃食用油の燃料利用(H24~)</p> <p>・古紙分類範囲の拡大方策検討(H25)</p> <p>・ゴミ収集に、雑がみ(封筒、菓子、食品の箱や様々な紙製品)、特定品目(電池、蛍光灯、スプレー缶など)の無料回収の追加(H26)</p>	<p>○市民1人・1日当たりのごみ排出量、リサイクル率ともにほぼ横ばいの状態となっていたが、26年度は、4月より、ごみの分別区分に雑がみを追加したこと等により、リサイクル率がアップした。</p>	<p>雑がみや小型電子機器、古繊維等の取組については、引き続き、HPやイベント等での周知等が必要と考える。</p>
--	--	---	---

<p>・リサイクル推進に向けた普及支援</p> <p>↓リサイクル製品の情報提供、率先導入</p> <p>↓率先的導入、実用性等の実証PR支援</p> <p>↓地域関係者の意見調整等</p> <p>↓リサイクル事業創出・誘致への支援</p>	<p>・市(役所)としてのグリーン購入の推進に向けた検討(H24~)</p> <p>・地域企業、関係機関等との環境関連事業推進検討研究会の立ち上げ(H25)</p> <p>・グリーン購入の取組</p>	<p>○滝川市においてもグリーン購入の考え方を実施しており、市庁部局のほか、市内企業もグリーン購入を気軽に取り組むことができるような施策を検討していく。</p>	<p>滝川市のグリーン購入の取組については、現在、指定用品のみの適用としているが、今後は、市長部局全体で取組を進めていくことができるよう更なる取組が必要である。</p>
--	--	--	--

流1 バイオマスなどの地域の新エネルギーの利用促進を図る

■バイオマスエネルギーの活用拡大

- ・ 廃食用油の燃料化利用
- ・ 農業系残さや剪定枝、枯れ草などの未利用バイオマスの資源化策の調査・検討

■太陽光や雪エネルギーなどのその他の新エネルギーの利用推進に向けた検討

- ・ 太陽光発電の地域への普及に向けた情報収集の推進
- ・ 雪エネルギー利用の先行事例等の情報収集・研究

①行政としての役割	②これまでの取組	③左の説明コメント	④委員会からの評価コメント(案)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における関係者等の集約 ↓ 国や試験研究機関等との連携強化 ↓ 効率的な回収システム等の検討 ↓ 事業化に向けたコーディネート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国や関係団体、試験研究機関等との連携構築、有効利用に向けた検討(H16～) ・ 滝川市バイオマスタウン構想の策定(H18、H19に改訂) ・ 市役所エネルギー研究会の立ち上げ(H23) ・ バイオガス利用の調査・検討(H24～) ・ 公共施設における使用済み食用油の燃料利用について(H24～) 	<p>○平成24年度に設置した廃食用油を燃料としたボイラーの稼働により、滝川市全域から収集される廃食用油が定量的に消費されるようになったことから、引き続き、回収についてのPRに努める。</p>	<p>継続的に利用可能となるよう、回収量増加のためのPR活動等を改めて行う必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新エネルギーの事業化可能性検討 ↓ 公共施設への太陽光発電の先導的導入 実績データ等の集積・分析 導入促進支援策等の検討 ↓ 雪エネルギー利用に関する情報収集 ↓ 国の支援制度等に関する情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新エネルギー教室、燃料電池教室開催など(H18以前～) ・ 庁舎への太陽光発電設備の導入(H22) ・ 住宅用太陽光発電導入支援補助金の創設(H23) ・ 市内公共施設等のデータの集約及び公表 ・ 市役所エネルギー研究会の立ち上げ(H23) ・ 滝川市大規模太陽光発電所の誘致(H24～) ・ 滝川市内の住宅用太陽光発電システムのデータ公開(H25～) ・ <u>滝川ふれ愛の里への太陽光発電、小型風力発電、太陽熱温水器、蓄電池等設備導入(H26～)</u> 	<p>○メガソーラー発電所の誘致のほか、風力発電などについても導入可能か検討を行い、滝川ふれ愛の里に風力発電や太陽光発電などを導入した。</p>	<p>ふれ愛の里で風力発電や太陽光発電などが導入されているが、他の施設にも導入されることを期待する。</p>

流2 地域省エネルギーと温暖化対策の普及推進

■省エネルギーの推進は自己把握と意識の徹底から

- ・ 自らのこれまでのエネルギー消費の実態を把握する
- ・ 無駄点検と省エネ意識の向上を図る

■省エネを設備や技術からアプローチする

- ・ 「滝川市地域省エネルギービジョン」の実践推進
- ・ 省エネ導入に関する基本的知識等の普及
- ・ 省エネ技術等の情報周知
- ・ 省エネ先導モデルとしての公共施設での取組実践の推進
- ・ 効果データの共有により地域へのさらなる普及拡大へ

■地域における地球温暖化対策の推進

- ・ 地域における温暖化対策の検討
- ・ 省エネ法に基づく事業者等に対する省エネ対策の推進PR
- ・ エコな移動手段である公共交通機関の利用促進

<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネの実践及びサポート ↓ 省エネモニターの普及 ↓ 公共施設での省エネの先導的実践 ↓ 具体的な省エネ対策の提示 ↓ 公共交通機関の利用促進対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネモニターの実施(H19～) ・ 地域公共交通活性化協議会の開催(H20～) ・ 滝川市地域省エネルギービジョンの策定(H21～H22) ・ 庁舎への高効率タイプ照明器具の導入(H22) ・ バス利用促進キャンペーンの実施(H22) ・ <u>滝川第三小学校・開西中学校の高効率タイプ照明器具の導入(H23～26)</u> ・ <u>市内小・中学校屋内体育館のLED照明設備更新(H25～27)</u> 	<p>○引き続き、公共施設のエネルギー消費量を減少させることができた。</p> <p>○改築した滝川第三小学校、開西中学校に人感センサーや高効率型照明を導入したほか、市内小・中学校屋内体育館へのLED照明設備更新など省エネ機器導入に努めた。</p>	<p>市の公共施設等のエネルギー消費量を減少させ目標は達成しているが、今後も補助金等を活用しながら省エネ機器を導入するなど対策が必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ↓ 省エネに関する情報等の普及 ↓ 公共施設での先導的導入検討 ↓ 効果の見える化の推進 ↓ 経済性を含めた効果等のPR ↓ 民間による製品や技術等のPR支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料電池自動車などのエコカー試乗会(H21) ・ 出前省エネ講座の開催(H22～) ・ 省エネレンビの制作・配付(H23) ・ 民間企業等における省エネ型製品等の情報収集及びその普及(H23～) ・ 家庭向け及び事業者向け省エネセミナーの開催(H24) ・ 電力消費モニター機器の貸出し(H24) ・ 街路灯のLED照明等高効率照明設備への更新促進(H24～) 	<p>○節電や電気料金の値上げなど、家庭に直接影響を与えるような問題も多々あるため、職員の知識を高めるような取組みのほか、省エネ機器の情報収集等を積極的に行い、広く情報提供に努めていく。</p>	<p>エネルギー問題は、市民の生活と直結する問題なので、市民・行政の知識を高めるとともに、今後も引き続き省エネなどの情報提供に努める必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ↓ 温暖化対策に関する情報収集、提供 ↓ 地域の先導役としての方策の提示 ↓ 公共交通機関の利用促進対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネモニターの実施(H20～) ・ 地域公共交通活性化協議会の開催(H20～) ・ 滝川市地域省エネルギービジョンの策定(H21～22) ・ 庁舎への高効率タイプ照明器具の導入(H22) ・ 庁舎への太陽光発電パネル設置(H22) ・ バス利用促進キャンペーンの実施(H22) ・ 出前省エネ講座の開催(H22～) ・ 省エネレンビの制作・配付(H23) 	<p>○メガソーラー誘致、ふれ愛の里へ風力発電・太陽光発電などの導入、学校にLED照明などの省エネ機器を導入するなど地球温暖化対策を行ったほか、公共交通機関の維持確保や温暖化対策の周知に努めた。</p>	<p>今後も施設における省エネのほか、市民や事業所へ温暖化対策に関する情報提供に努める必要がある。</p>

場 1 「農」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語	①行政としての役割	②これまでの取組	③左の説明コメント	④委員会からの評価コメント(案)
<p>■クリーン農業の推進による環境保全と生産システムに係る信頼の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な施肥と防除により、化学肥料、農薬の使用抑制を進める 各種認証制度の活用により、クリーン農産物の差別化とブランド化を促進 クリーン農産物を媒介した地域活性化 クリーン農産物を支える生産、流通、消費システムの構築 	<p>・認証制度の広報展開や情報提供</p> <p>↓地場産品の認証状況について情報提供</p> <p>↓農産物についての基礎的知識の普及</p> <p>↓クリーン農業への支援拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> 減農薬米への支援推進・販売 滝川産ナタネ油の生産及びブランド力の向上への支援(H19) 地場農産物販売拡大事業(H20)・地産地消イベントの開催(H21) 滝川地産地消ふるさとづくり協議会の設立 地産地消認定店制度の創設(H22) 	<p>○地産地消については、市内及び市外への物産フェアへの参加や市内農業者、たきかわ未来プロジェクト、江部乙商工会などと連携した「軽トラ市」の開催、地元レストラン等の協力による地産地消料理教室及び地産地消グルメフェアを開催、新商品開発などの取り組みを行った。</p> <p>○地産地消認定数は2増の37店舗となった。また、認定店や地産地消の周知拡大に取り組んだ。</p>	<p>地産地消認定制度の認定店舗数については順調に増加しており、引き続き取組を続けるほか、この制度の周知を一般市民に対しても広く行う必要がある。</p>
<p>■安全・安心のニーズに応える農産物供給システムの構築と地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 農産物の安全・安心をデータとして、生産履歴を表示 地場農産物のカタログ化 農産物の生産現場を体験する消費者交流や教育現場への体験学習の導入 家庭や学校等における安全・安心農産物による食育の推進 都市・農村の交流促進と歩いて楽しむ農地の散策路づくり 	<p>・学校や社会教育における食育の啓発</p> <p>↓地場食材の情報提供</p> <p>↓消費者と生産者の交流機会の創出・運営</p> <p>↓教育カリキュラムへの農業体験の導入拡大</p> <p>↓学校給食を通じての地場産農作物への理解向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 親子農業体験塾(H18以前) 地産地消交流給食(H18以前) 滝川わくわく食育・エネルギー教室(H25) 第2次食育推進行動計画の策定(H24~H28) 食育ファーム事業(H24~H28) 	<p>○食の大切さや地元食材に愛着を持たせるため、子どもを対象に農業体験・地産地消などの推進をした。家庭や地域、生産者、行政などの相互の協力と連携を行い、地域に根差した食育の取組を行った。</p>	<p>農業体験授業は、引き続き、教育・農業・経済などの各所管や民間団体等との連携を行う必要がある。</p>
<p>場 2 「山・森」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語</p>				
<p>■山がはぐくむ「水・土・森」の保全と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 山の水脈を包む流域の森林生態系を保全 計画的な造林・保育・間伐などの施業 「石狩川ルネサンスの森」の育樹(植樹・管理)を協働で進める 	<p>・森林の生態系に関する情報の提供</p> <p>↓森林保育の協働の場づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 石狩川クリーンアップ作戦(石狩川築堤・ラウネ川)では、100名の市民がごみ拾いに参加するなど、一定の浸透が図られているが、今後もさらなる活動拡大のためのPRが必要である。 	<p>○市民や企業、団体等と連携し、河川環境の保全と改善、川の自然体験学習活動、内水防水対策活動、流域の交流活動など、NPO法人まち・川づくりサポートセンターと連携しながら進めている。今後は、植樹後の市民の憩いの場の確保や維持管理などをいかに進めていくかが課題である。</p>	<p>民間団体との連携のもとで、更なる活動を期待する。</p>
<p>■居住空間における緑の保全と量の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 街路樹など街なかの緑を協働で保全 個々の緑のボリュームアップと質の向上 	<p>・協働の仕組みを整える</p> <p>↓住民理解を深める</p> <p>●協働の仕組みを構築する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農地・水・環境保全向上対策事業(H19~H23) 農地・水保全管理支払交付金事業(H24~H25) 多面的機能支払交付金事業(H26~H30) 	<p>○水路、農道、ため池および法面等、農業を支える共用の設備を維持管理するための地域の共同作業を支援した。</p>	<p>交付金を最大限に活用しながら今後もさらに地域の主体的取組を支えていく必要がある。</p>
<p>■森林と人との共生、交流を進め、森林の多様な機能についての理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林の生物調査や自然生態系調査を市民参加で実施 森林浴や自然体験活動の実施と、自然ガイドの育成強化 そらぶちキッズキャンプの整備と、森林生態系体験のフィールドづくり 歩いて楽しめる森の散策路づくり 	<p>・森林の多様な機能に関する情報提供</p> <p>↓市民調査活動への支援</p> <p>↓公共林への調査活動の支援</p> <p>↓森の散策路の整備</p> <p>↓森のかがく活動センターの場の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> 滝川遊学会事業における自然体験(~H23) そらぶちキッズキャンプ実現化支援(~H23) 	<p>○車いす利用者であっても容易に収穫体験が可能なユニバーサル農園や、自然木を活用したツリーハウスなどの整備を行っており、滝川市としても引き続き必要な支援に取り組んでいく。</p>	<p>団体の活動については、今後も活動の拡大、充実に期待する。</p>
<p>場 3 水の流域環境と物質循環を持続的に支える河川環境の物語</p>				
<p>■河川の自然生態系を再生する物語のシナリオを描く</p> <ul style="list-style-type: none"> 水質浄化や河川流域清掃作戦のプログラムづくりと市民の参加 水質や水量、生物生息、植生など多様な調査データを整備 河川流域で生活する人や土地利用の状況を調べて流域マップに集約 河川環境の保全と活用についてのシナリオづくりを市民・行政の協働で推進 	<p>・河川管理者と連携して河川情報を提供</p> <p>↓河川環境の市民調査に対して支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> まち・川づくりサポートセンターの活動推進支援 	<p>○石狩川クリーンアップ作戦(石狩川築堤・ラウネ川)では、100名の市民がごみ拾いに参加するなど、一定の浸透が図られているが、今後もさらなる活動拡大のためのPRが必要である。</p>	<p>団体の活動については、今後も活動の拡大、充実に期待する。</p>
<p>■水辺のふれあい活動を広め、活動の拠点づくりを進める</p> <ul style="list-style-type: none"> 流域の水辺再発見プロジェクトを実践 水辺の環境観察・調査活動への参加と水辺のガイド役を養成 水辺の体験学習プログラムの開発と参加の拡大 水辺の植樹や動植物の生息空間整備など自然環境再生活動の展開と市民参加 <p>・水辺の活動拠点「サポートセンター」の設置と拠点化</p>	<p>・活動の場の整備と提供</p> <p>↓活動空間に関する情報の整備と提供</p> <p>↓自然ガイドの派遣</p> <p>↓活動拠点の場の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> まち・川づくりサポートセンターの活動推進支援 	<p>○「みんとち自然体験楽校」を設立して、身近な自然や川を題材に様々な体験活動を通して、環境問題に気付いたり環境保全への関心を高めたりすることをねらいに、春夏秋冬の全4コースを開催した。</p> <p>○石狩川での体験型環境学習を通じて、一人ひとりが身近な河川環境を守ることの大切さを認識して行動できるよう学習事業を提供した。</p>	<p>団体の活動については、今後も活動の拡大、充実に期待する。</p>

環1 人の環をつくるための情報が集う場をつくる	①行政としての役割	②これまでの取組	③左の説明コメント	④委員会からの評価コメント(案)
<p>■エコネット(関連情報集約のためのネットワーク)の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用し、情報と連絡体制の共有、活性化を図る ・環境を軸とした市民やグループなどのネットワークの核とする ・滝川の環境に関する情報を網羅する 	<p>・エコネットの構築・運営</p> <p>↓情報の集約・仲介のしくみの整備</p> <p>↓提供サービス内容の検討</p> <p>↓たきかわエコネットの構築・運営</p> <p>一人の環のベースづくりのサポート</p>	<p>たきかわエコネットの運用開始(H23～)</p> <p>たきかわエコネットのHP改新(H25～)</p>	<p>○たきかわエコネットのHPを改新し、フリーマーケット情報交流事業のほか、不用品データバンク等の情報についても新たにたきかわエコネットのHPから閲覧できるように変更したこともあり、発信情報件数はH25年度よりも増加した。今後は、団体等がより使用しやすいような枠組みを構築できるよう努める必要がある。</p>	<p>エコネットの情報量や団体数の増加を図るため、団体が利用しやすい枠組みを構築するよう工夫を凝らす必要がある。</p>
環2 体験を通じて学ぶ現場学習の推進	<p>・環境学習リーダー育成プログラム作成</p> <p>↓プログラムの構築</p> <p>↓団体や事業者等との連携構築による内容工夫</p> <p>↓環境学習リーダーの活動の場の創出</p> <p>●核となる人材の育成</p>	<p>環境学習リーダー養成講座の開催(H18～)</p> <p>環境学習リーダー養成講座の開催内容の再検討(H25)</p> <p>滝川わくわく食育・エネルギー教室の開催(H25)</p> <p>「水」と「エネルギー」について学ぶ！環境わいわい教室の開催(H25)</p> <p>ゲームで学ぶ！環境わいわい教室の開催(H26)</p> <p>環境学習リーダー養成講座エコ部！の開催(H26～)</p>	<p>○外部講師を招き、小学生を対象にゲームで学ぶ！環境わいわい教室を行った。</p> <p>○環境学習リーダー養成講座については、高校生ボランティアを中心とした「エコ部！」を新しい取組として行った。活動回数は企画、イベントも含め全30回で、夏季・冬季イベントで延べ491人の小学生に環境学習を行った。</p>	<p>環境学習リーダー養成講座、「エコ部！」に関しては、新たな方向性を見出したことを評価する。次年度以降のあり方について検討が必要。</p>
<p>■環境学習の多様な展開により、環境意識を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、学校、職場、市民グループの環境学習への対応 →地域の人材や事業所のエキスパート等を活用した講師派遣のしくみづくり ・学校教育プログラムとの連携 ・民間団体、事業所等のイベント等との連携による学習提供機会の拡大 	<p>・民間の人材等の活用システムの構築</p> <p>↓団体や事業者からの情報収集</p> <p>↓相互連携による内容の充実</p>	<p>たきかわエコネットの運用開始(H23～)</p>	<p>○引き続きたきかわエコネットにおいて情報提供を行った。</p> <p>○「エコ部！」のイベントを起点として、たきかわエコネットに登録している団体などから講師依頼をするなど地域の人材を活用した環境学習を展開した。次年度以降も小学生向けの環境学習を協力して行う体制が整うなど連携が深まった。</p>	<p>エコネットやイベントなどを通して民間団体との交流が進んだが、次年度以降も積極的なアプローチに努める必要がある。</p>
環3 人々の交流が「人の環」を形成し、物語を次のステージに押し上げる	<p>●協働で環境市民大会の企画・準備・運営</p>	<p>たきかわエコネットの運用開始(H23～)</p>	<p>○「滝川高校」及び「エコ部！」と合同で環境市民大会を行った。今後は、たきかわエコネットに登録している団体などとの連携も深め、環境市民大会などへの参画を促していく。</p>	<p>民間団体と協働で企画する体制づくりなども検討していく必要がある。</p>
<p>■市民・事業者・行政の環を形成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を幅広く市民が共有し、参加の機会を広げる環境市民大会の開催 				

たきかわ「環のまち」物語は、次のステージに引き継がれる・・・